

相愛大学研究シーズ集

シーズ名	『嶺松和歌集』の基礎的研究—近世和歌の実態の解明	
所属	共通教育センター	
氏名	千葉 真也	
【概要】	<p>近代に入って正岡子規他によって和歌の革新が提唱されるまで、和歌の多くは題詠であり、定められた歌題をもちよる歌会が創作活動の大きな部分を占めていた。『嶺松和歌集』は本居宣長が周辺の門人・知人と継続的に行っていた嶺松院歌会の記録であり、現在までほとんど研究が行われていないが、宣長の文学的な営為を生き生きと示す資料であると共に、門人・知人の動向をうかがうことのできる資料でもある。同時に題詠を中心として行われた近世の和歌の世界をリアルな認識を可能にする資料である。学界で共有されるべき資料であるので基礎的な読解作業を行っている。</p>	
キーワード	日本文学、思想史、日本語学	